

郷土芸術賞に輝く

(中)

受賞者紹介

齋藤一明さん

(釧路市白金町17)



仏像の世界が理想と…齋藤さん

若手グループのリーダー、光る活躍

に傾く。三十九年、釧路展で開いているグループ展「彫刻家協会賞、全道展で知事賞をそれグループ北斗会展」に参加している。それ受賞、四十年に全道展会友、釧路美術会、四十二年に図画の世話役でもある。展入選、四十七年の全道展に大作「大地」を出品して会員推せ「私のようなものに」と、受賞の感想はひかえ目だ。しかし彫塑のことに話題が転じると、ことばに熱を帯びてくる。

◇ ◇ ◇

「最初は彫刻そのものの追求だったんです。内から出る力、といったもの重くて軽くて硬くてやわらかいーそれが生きた人間に感じるものなんです。そういうものを出せれば、と思っていました。変わってきたといえは、いまは人間そのものの追求を考えている、とでもいいますかー」。

◇ ◇ ◇
四年ほど前からセメントを使いはじめた。細かい部分を取り払って、単純化された塊の中に生きた人間を表現したい、という試み。

「仏像の持っている世界が、理想なんです。表面に出ているものはわずかだが、内からいっはい出てくる、そんな作品をつくりたい」。

いま、半身像に取り組んでいる。

彫塑に尽きぬ情熱

アトリエ彫塑集団の代表であり、アトリエ教室では、米坂ヒデノリさんとともに指導にあたり、若手グループのリーダーとしての活躍の一方で、制作への意欲は尽きない。彫塑のキャリアは十年余、昨年十月にはその集大成として彫刻展を開いた。

昭和三十五年、成人学校で絵の勉強をはじめたのが、美術の。昭和三十六年かの第一回生として米坂ヒデノリさんとなった。個展はこれまで三回を数え、四十五年から函館で